

# 気候変動対策を市民の手で！ ～学生主体の気候変動問題認知のためのアプローチ～

## The Climate Change Action in Hachioji City ～Focus on Awareness Approach by Student's Power～

Team CED

前島奈緒子<sup>1)</sup>, 谷清<sup>1)</sup>, 井上雄大<sup>1)</sup>, 吉村純<sup>1)</sup>

指導教員 野村佐智代<sup>1)</sup>

創価大学 経営学部経営学科 野村ゼミナール

キーワード：気候変動、エコアクション、はちエコポイント、市民への認知、学生力

### 1. はじめに

令和元年、未曾有の台風被害により、八王子市民は非難を余儀なくされたことは記憶に新しい。本学でも浅川近くに立地する寮の学生たちを中心に多くの学生が、大学に避難し不安な数日を過ごした。気候変動問題は、八王子市においても、身近なものとなっていることを実感させる災害であった。

今年度も台風被害は日本全国で頻発しており、甚大な被害を食い止めるにはどうしたらよいのか、私たちは、まず、自分たちの学び舎があり、また多くの学生たちが住む八王子市の気候変動対策について調査を行った。そこで、市のホームページを確認したところ「八王子市地球温暖化対策地域推進計画」を中心にいくつかの詳細な対応策が、掲げられていることがわかった。しかし、こうした対応策について、自分たち自身も、また、周辺の友人たちもその内容に関して、全く認知していないことに、まず気付かされた。

そこで、私たちは八王子市の気候変動対策を本格的に推進することができるよう、まずは、八王子市民への認知を高めるためのアプローチ方法を考えた。現在、市域には 25 の大学・高等専門学校が所在しており、学生数は約 11 万人で、市民数から換算すると 5 人に 1 人が学生であることがわかる。学生の力を大いに活用した、瞬発力のあるアプローチを提案したい。

### 2. 現状分析

まず、八王子市の環境対策を SWOT 分析することによって、市の問題点および解決策を明らかにすることを試みる。気候変動問題は様々な環境問題と根底ではつながっていると考え、ここでは、環境対策全般を対象とした(図 1)。

#### ① Strengths (強み)

八王子市はすでに、市民参加型の施策をいくつも行っている。例えば、はちエコポイントや八王子環境フェスティバルがある。これらの啓発イベントは、環境対応推進のための大きな強みとなる。

#### ② Weaknesses (弱み)

上記で触れたように、市民参加型の環境対応は強みとしてあげられる一方で、認知がうまく機能していないという点が弱みとも捉えられる。はちエコポイントの実際の登録者数を見ると、現在、約 1600 人である。これは人口約 58 万人に対して非常に少なく、まだ増加および対策の効果を見込める余地がある。また、八王子環境フェスティバルを開催することは効果的ではあるが、市民が実際にどう取り組むべきかといった指標を認識活用するには至っていない。

八王子市全体の CO<sub>2</sub> 排出量のうち、民生家庭部門が 32.5% と最多の割合を占め、市がどれだけ環境対策を行っていても、市民の認知がなければ、民生家庭の CO<sub>2</sub> 排出量削減の達成は望めない。

### ③ Threats (脅威)

Weakness である市民の環境問題に対しての認知機能の不全は、昨今起こっている暑熱環境の悪化、大雨による災害発生などのリスクを増大させる懸念がある。それは、八王子市の住みづらさ、という点でのイメージダウンにもつながる。

### ④ Opportunities (機会)

冒頭で述べたように、学生の存在を活かすことが問題解決の機会につながる。八王子コンソーシアム等も活用しながら、学生の柔軟な発想力、情報拡散力を利用し、市民への認知を促すこと可能であると考える。



図1 八王子環境SWOT分析

## 3. 現行の改善案-市民への認知

### ①正確かつ明瞭な情報提示

過日、気候非常事態宣言の推進者である山本良一氏（東大名誉教授）の講義を受ける機会があった。そこで、人間のライフサイクル全般での活動における環境負荷を定量的に示す手法の1つである「カーボン・フットプリント」という手法を世界中の自治体が利用していることを知った（図2）。

八王子市が公表しているCO<sub>2</sub>排出量やエネルギー消費量は総量であり、環境政策課の方にインタビューした所、詳細な内訳の統計はとっていないとのことである。カーボン・フットプリントを用いて“可視化”する事で、市民が自分たちの行動でどのくらい地球に負荷を与えているのかを自覚できる効果があると考える。

### ②エコアクションへの動機付け

はちエコポイントに焦点を当てると、登録増と

共に「登録から利用へ」の推進が肝要であると考える。2020年度登録者数のうちポイント獲得者の割合はわずか9.35%であった（HP内のデータを用いて算出）。その要因の1つに利用内容のターゲットの限定が考えられる。商品券・地域活性化や環境配慮型の商品と充実しているが、学生を含む若い世代が使うには少々不便である。ポイント管理のアプリ利用や、プラスチック削減のための保存容器や保冷バックといったエシカル製品の提供を提案したい。エコ活動によって、さらにエコを推進させるようなアウトカム（成果）を提供することで、市内にエシカル消費者を増やす取り組みにもつながる。

## 4. 今後の展望-学生の活用

八王子市の「弱みである市民への認知および啓発を、強みである学生数（=力）で変えていく」ことが可能であることを、最後に展望として3点にまとめる。

### ①学生×SNS（情報発信）

コロナ禍で、SNS活用の利便性がより増している。野村ゼミではSNSでアカウントを立ち上げ、活動報告や環境問題に対する意識啓発などを行っていて、短期間でフォロワー数は約450名となった。SNS活用に慣れている学生の力を、市の環境活動啓発に大いに利用できる。

### ②若者×意識調査&啓蒙活動

市内により多くの大学と連携し、環境対応に関する意識調査アンケートを行うことや、シンポジウムを開催することが可能である。

### ③学生コミュニティ×環境問題

多くの学生が八王子市内でアルバイトを行ったり、娯楽に興じたりしており、それらの場で環境行動のアクションを起こすことができる。野村ゼミではこれまで、飲食店でのフードロスを減らすため、アルバイト先への働きかけや、捨てられるワインボトルをリサイクルする取り組みをしてきた。

気候変動対策のための、より大きなアクションを八王子市と、また市内の学校と起こしていき、災害の少ない安心して住める八王子市を応援していきたい。



図2